

種付け様

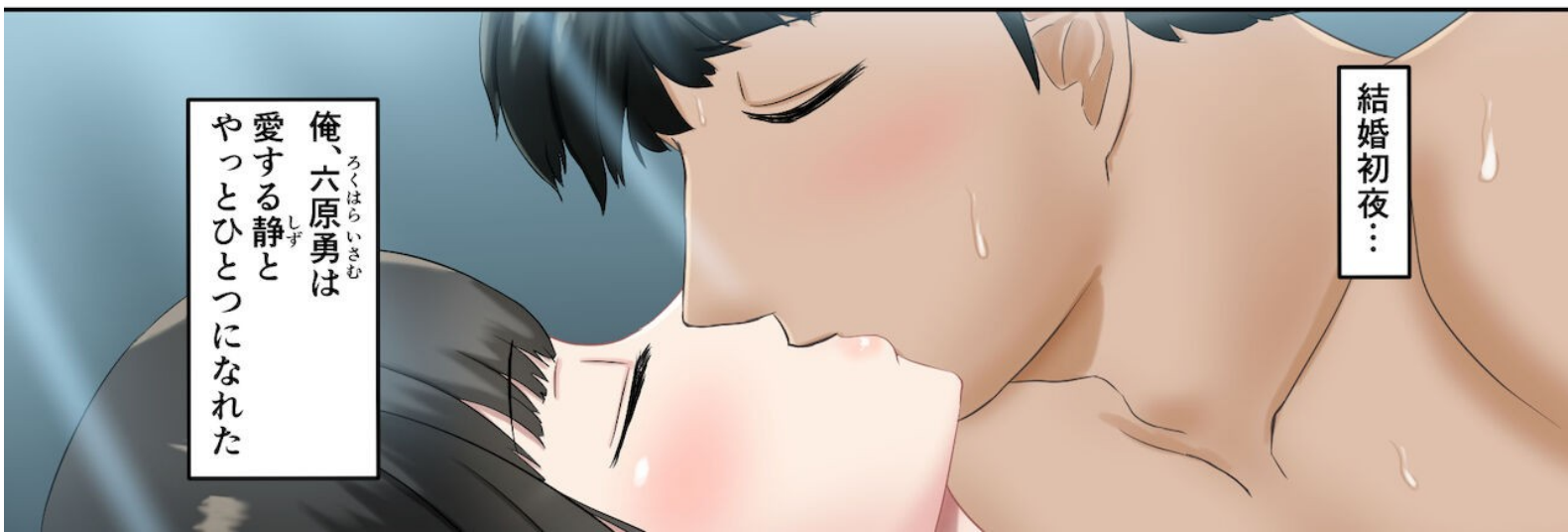
村の淫習

目の前で墮ちていく妻



その昔、人手不足で潰れかけのある小さな村に
一人の落ち武者が迷い込んだ

遠方の地よりやってきたその男は
その村の男たちとは違う
繁殖力の高いそう立派なマラを持っていたそうなの……



戦後まもなくして生まれて
この小さな村で育った俺たちは
幼い頃から毎日顔を合わせてきた

静は余計なこととは言わずに無口で
無欲で、知的で、心優しく、べっぴんだ

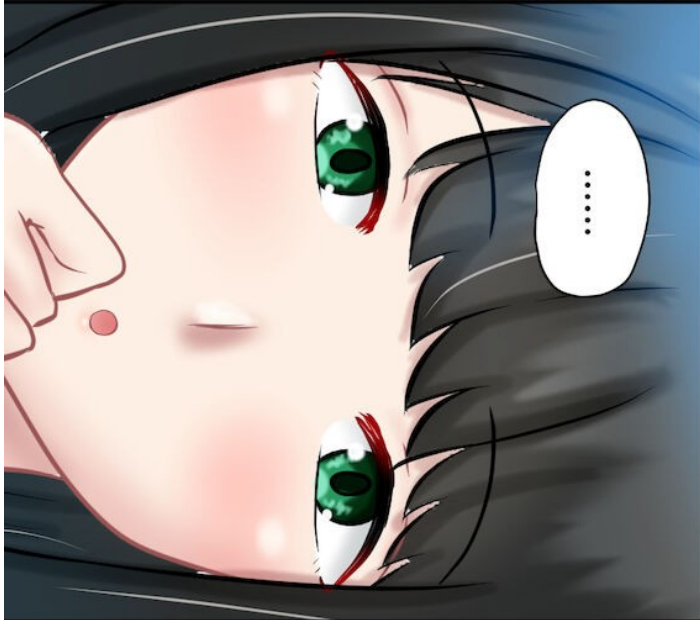
そんな理想の女性そのものの静に
物心ついた頃から俺は惚れていた

早く夫婦の関係になって
一緒に暮らしたくて仕方がなかったのだ

初めてでうまくはできなかったが
静の体温を肌で感じ
やっと結ばれたんだという思いが
強まってそれはそれは幸せだった

男の子なら腕っぷしの強い子
女の子ならべっぴんさんが
ほしいけど…
静より上ってのは
難しいだろうなあ

まあお上手
くまぐす



純粋な願望として子供が早くほしいというのはもちろんだがそれだけが理由ではない



半年ほどが過ぎたところであの「あの方」からのお達しがきてしまった

あの方とは…

「種付け様」だ

「種付け様」というのはもちろん通称で実際は榊家^{さかき}という村の有力者の家系のお方だ

六原 静 殿

村一番の立派なモノをお持ちで確実に女を孕ませることができるという

種付けの儀 招集令状

昭和四十年十月七日 午後二時

一日時 場所 榊家

尚、夫も必ず同席すること

村の繁栄のため結婚から半年以内に妊娠できなかった女は強制的に種付け様から子種を授かる「儀式」を行うことになっている

榊 康臣

この村で古くから続く風習で今の種付け様が何代目かもわからない

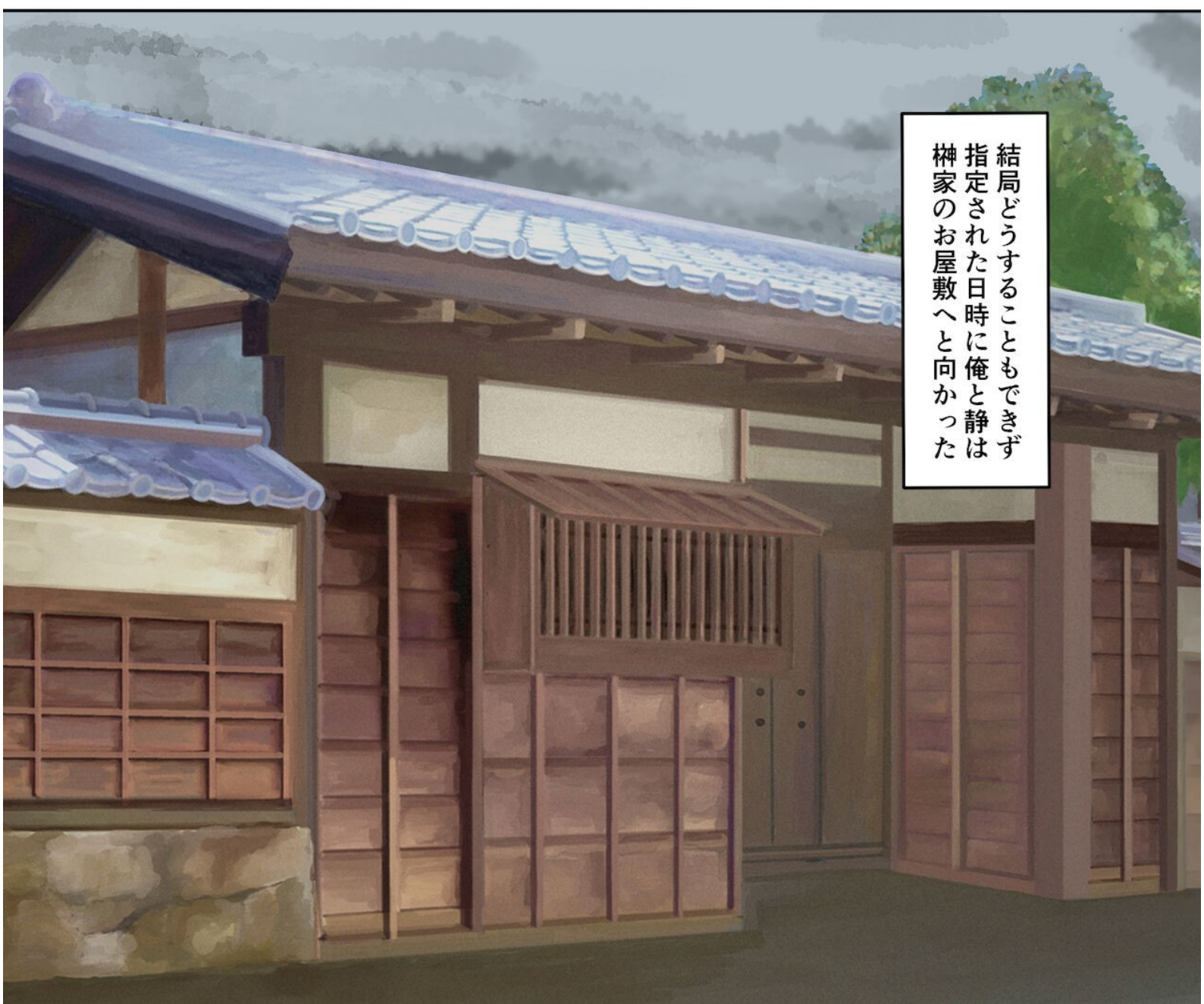
俺の血が子供に入らない
というのは辛い

それになにより

最愛の妻が他の男に抱かれるなんて
想像するだけで気が狂いそうになる

でもこの小さな村で風習に逆らえば
俺も静も一体どんな目に合わされる
のかわからない：

結局どうすることもできず
指定された日時に俺と静は
榊家のお屋敷へと向かった





何もない
スツキリとした部屋に
敷布団と枕が一组…

これから起こることを
否が応にでも
想像させられる
光景だった

勇さん

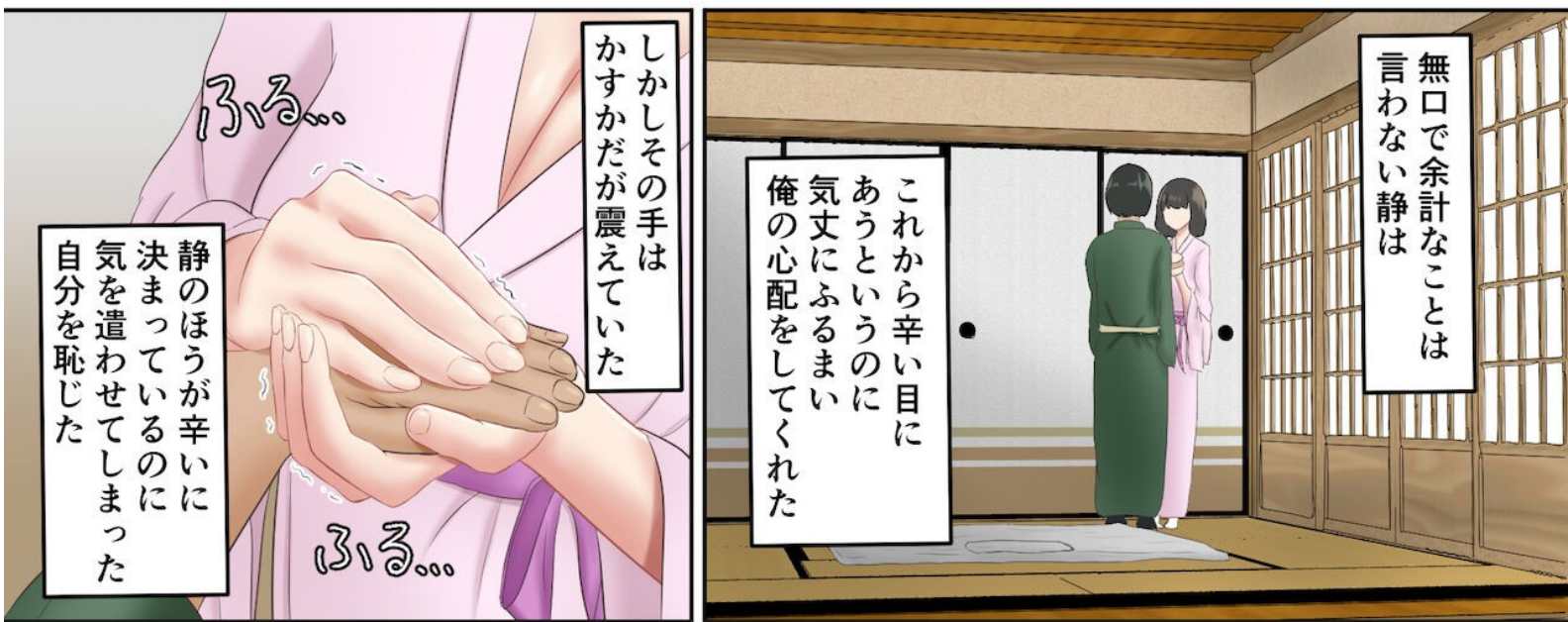
え？

フム…

…

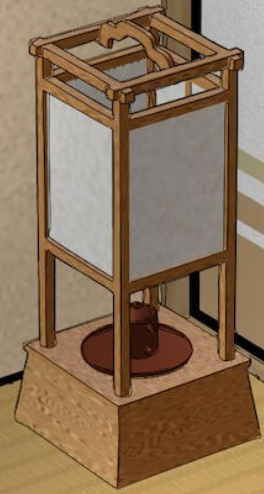
心配しなくても

私はあなたの妻です



しかし待てども待てども
相手は一向に現れなかった

俺と静はずかにその部屋で
儀式が始まるのを待った



早く始まって早く終わって
ほしいとも思うが
このまま永遠に始まらなければ
良いのにも思えた

そういう無意味な思考を頭の中で
繰り返ししているだけで
余計に気分が悪くなってきた

まるで地獄のような時間だった

そしてすっかり日も暮れた頃…

その男は
やってきた



それではこれより

「種付けの儀」を執り行う

ぬっ……

心得ていると思うが
これは子を授かるための儀式であって
情愛や快楽を目的とした夜伽ではない

その確認のため
ご主人には同席をお願いしている

はい
存じております

儀式はワシの指示通り
淡々と必要最低限の手順で
行うものとする

二人とも
よく従うように

仰せの通りに
いたします

よろしい
ではまず奥方の方から
「準備」していく

こちらへ

はい

想像以上に形式ばった形で
進むようで
また、榊の人柄も落ち着いていて
正直肩透かしをくらった

好色な男に強姦や変態めいた
行為をされることも想定していたので
すこし安心することができた

やはり無用な心配を
していただけなのかもしれない

しかし…
そんな悠長に構えて
しまっていた自分を
すぐに呪うことにな
ろうとは…

まずは奥方の膣を濡らしつつ
孕みやすくなるよう子宮をおろしていく

する...

お、お願い...します

脚を開きなさい

ぐい

あっ...

見慣れているはずの
妻の乳房や秘部は
いつもとは違って
より淫猥に見えた

それは、もう自分の手の届く
ものではなくってしまった
かのように感じられた
せいかもしれない

そして…
分かっていたことではあるが…

妻のカラダが目の前で
他の男の手で汚されていくその光景は
想像していた以上に辛いものだった

この感じじゃと…

く…
く…

この辺じゃな

く…
く…

びん

あ

は

あ

あ

あ

当たりのようじゃな...
ここを丁寧に等間隔で
押し上げてやることにより
奥方の膣はほぐれ
潤滑油となる蜜があふれてくる

ぬちっ...

ぬちっ...

静は必死に声や感情を
押し殺しているようだった

ぎゅっ

しかしペースの変わらない
榊のねちっこい指づかいとは
裏腹に静の様子は
みるみる変化していった

初めのうちはただただ恥辱に
耐えているかのように見えたが

ぐんぐん

ちやぷっ…ちやぷっ…と卑猥な水音が
響きだしたあたりから息はあがり

びくっ

ふっ…

その表情はいくばくかの隠しきれない
悦びを伴うようになった

あ

俺がしてあげているときとは
まるで違う反応だった

ぐんぐん

とろ…

ぐんぐん

いい具合にほぐれてきたのう…
膣壁からとめどなく
蜜があふれ出てきおる

…あ、あのっ…榊様…
こ、これ以上は…私…

んぐ



それは、我が妻ながら
初めて耳にする

吐息のまじった
とろけるようなあえぎだった



もう絶頂しおったか…
しかしそのような声をだしては
ご主人が気の毒じゃぞ

はあ…

はあ…

も…申し訳…
ありません…

はと…

勇さん、わたし、あの…
少し驚いただけですから…

あ、ああ…

どう考えても今のはイっていた…

あんなに余裕のなさそうな
静の顔は、見たことがなかった…
やはり気持ちよかったのだろうか…

ご主人、悪く思いなさるなよ
ある程度の快楽を得ることも
子を授かりやすくするための
手段としては必要じゃ

は、はい…
もちろんです

今まで俺がどんなに根気よくやっても
一度もイかせてやれたことはなかった…

それを、初対面で淡々と
いとも簡単にこなされてしまった…
前戯だけですでにオスとしての格の違いを
見せつけられた思いだった

そして――



すぐさま追い打ちを
かけられることになる

え……



次はワシのモノを準備していく…
口で濡らしてもらおうか

長さも太さもゆうに
俺のモノの倍以上はあった

代々村の娘たちを孕ませ続けてきた
遺伝子を受け継いでいるそれは
到底同じ人間のモノとは思えなかった

ただでさえ他人より小さい自分は
目にただで嫉妬と劣等感が
こみあげてきた

は…はい…!

静の清くやわらかな口が
他の男の汚れたイチモツを包んでいる…

極太のそれを苦しうに必死に
小さな口で必死に愛撫している…

その様子はまるで妻があつた男に
服従しているかのように見えた

そうではないとわかっていながらも
初めて味わう嫌悪感と疎外感に
俺の脳は支配されていた



くわえるのが苦しいのなら
裏筋を舌で根元からなめ上げてみなさい

榊の詳細な指示に従い静は舌を左右に
動かしつつ根元から亀頭まで丁寧な
なめ上げては戻りを繰り返した

俺が体験したことのない
淫猥な舌使いだった…







またもや静に
気を遣わせてしまった

うわべだけを見て判断し
ただただ嫉妬と疎外感に
支配されていた
自分が情けない

静は決して愉しんでいる
わけではなく辛いのだ

子を授かるために
耐えているのだ

夫としてしっかりと
支えてやらねばならない

静…頑張れ…!

ふむ…なじんできたようじゃな…

はっ
うっ

にゅぱ

突くたびにぬふぬふと陰茎が
少しずつ奥に飲み込まれていくわい

少し速くする

あんなでかいものでアソコを押し広げ
られているのだから、さぞかし辛いことだろう…
そう思いながら、しがみつく静を支えていた…

にゅっ

にゅっ

はっ

あぁ

にゅぱ





俺の腹に抱きついた時の
異常なまでの力と
聞いたこともない絶頂する声が
静の隠しきれない快感を
体現しているように思えた

つい先ほどまで痛そうにしていた
静の顔はいつの間にか恍惚とした
表情へと変わっていた

その後も静は俺の知らない
様々な体位で柵に犯された

ぱちゅ
ぱちゅ

先ほどの絶頂を境にして
無口でおとなしいはずの静が
まるで別人にでもなってしまった
かのように喘ぎだした

あ
はげし

静は女である以前にメスなのだと
いうことをまざまざと見せつけられた

自分で奥に
押しつけてみなさい

ぞく
ぞく

あああ
きんっ

これ
きんもあつ

行為中も静かな淑女なのだと思っていたが
それは俺が静を満足させてやれて
いなかったのだということに気づかされたのだ

ぐ
ぐ

先ほどまで気遣ってにくれていた俺のことももう見えてはいないようだった

あ♡

うしろ…あたる♡

し…静、大丈夫か？

プルプル

静？

おあんち…
おっきい♡

きもち…♡

ぽろ♡

まるで幼少の頃に帰ってしまったかのように
我を忘れてただただ快楽を貪っていた

オスとしての敗北感で
今にも気が狂いそうだが
逃げ出すことは許されない

ん♡

こんなに奥まで♡

おなかいっぱい♡

また、いきます♡

ずちゅっ
ずちゅっ

これは子を授かるための儀式なのだと
何度も頭の中で反芻しつつづけなければ
正気を保っていられなかった

そしてその時が来た

それでは十分に
準備もとのったので
種付けを行う



最も孕みやすい
この体位にて行う

ぐいっ

陰茎を根本までしっかりと
挿入しきるため
奥方の頭を固定して…



静はこれが儀式であることなどとうに忘れていたのではないかという疑問が浮かんだ

子供を授かるという目的はもう頭になく純粹にあの男との行為を愉しんでいる

いや、ちがう！

ふっ...
ふっ...

あぁっ♡
まっまっまた
イキまっ♡
んっ♡

ギリッ

また絶頂しおったか

静はそんな好色な女ではない！

きっと演技だ！
感じてるフリだ！

確実に子を授かるよう
榊の機嫌をとっているのだ！

そうだ！
そうに違いない！

もうじき終わる
辛抱せい

ばちゅっ

ぎゅっ♡

ばちゅっ

さ... あい♡
榊様
動かれるとお♡
わたじい♡おかしぐ♡
ん♡

子種がドクドクと
昇ってきおった

だ
ぢゅ

だ
ぢゅ

射精時は子種がしっかりと
子宮内へ注がれるよう
尻を固定する

ぐ
ぐ

ついに子種を授かれる！
頑張ったな静！

やっと子供ができる！
めでたいぞ！
うれしいぞ！

ぷ
ぷ
ぷ
は
は
は

念願の子供だ！
俺たちの子供だ！

が
り
が
り

出るぞ……！

代々うん百人と村娘たちを孕ませ
続けてきた当家伝統の特濃の子種じゃ！
うけとれい！

俺たちの……
おれた……

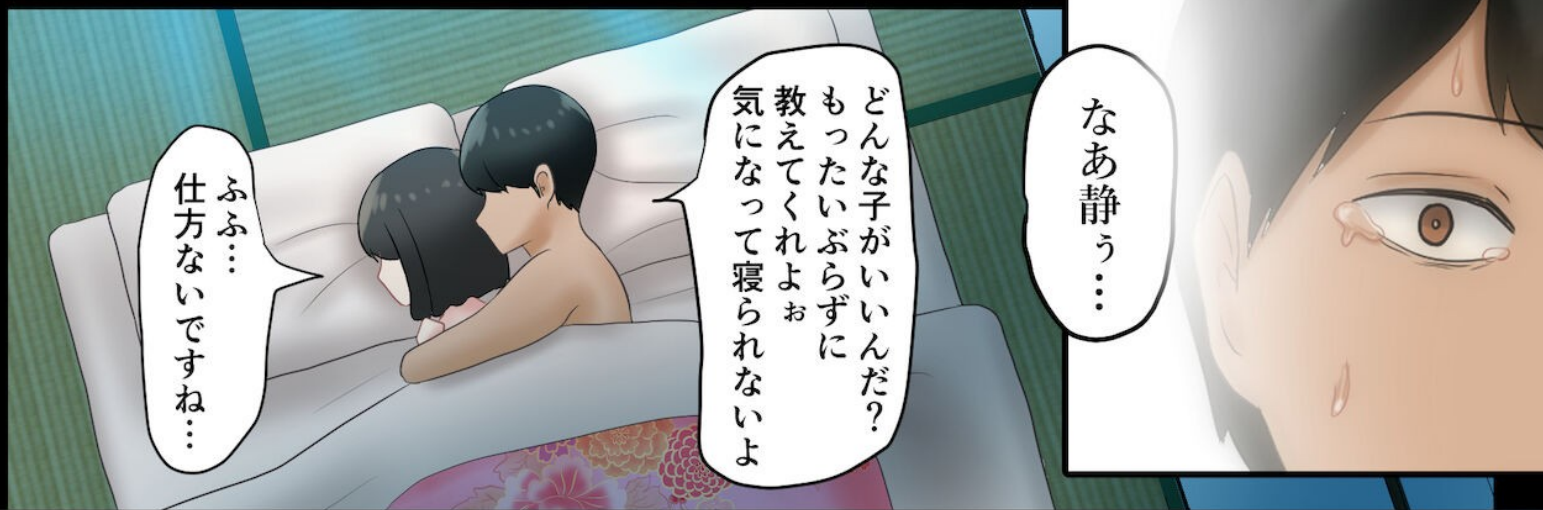
い、嫌だああああ
あああああああ！

ま、待っ……

さっ
柵様の子種
奥に下さ……

は
ん
だ
ぢゅ

だ
ぢゅ



なあ静う…

どんな子がいいんだ？
もったいぶらずに
教えてくれよお
気になって寝られないよ

ふふ…
仕方ないですね…



私は勇さんの事が
大好きなので——



あなたによく似てる子が

ほしいです…!!





んっ♡
ふああ♡
はっ♡
あぁ♡

びゅん♡

びゅん
びゅん
びゅん
びゅん
びゅん

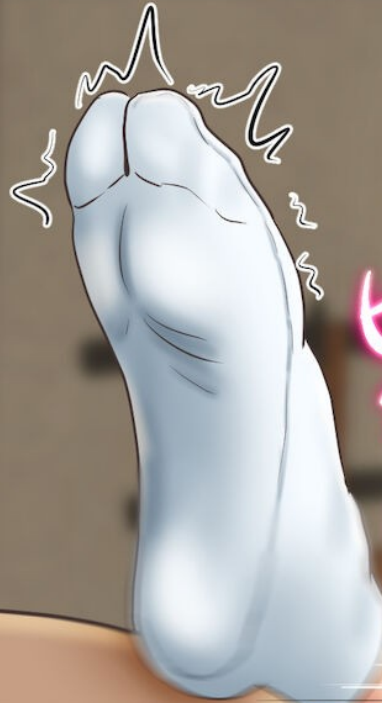
DT8
○○○

ビッ♡
ビッ♡

じゅっ♡



♡うっ
♡いっ
♡おっ
♡おっ
♡おっ



じゅっ♡

ぐっ

ぐっ

ひゅっ
ひゅっ
ひゅっ
...

ひゅっ
ぐっ

ひゅっ
ひゅっ
ひゅっ

ひゅっ

最後の一滴まで入念に
子宮の奥へとすりこむ



しかと流し込んだ…
種付け完了じゃ

あ…

どろろ

ぬぽっ





俺の胸を更にえぐった…

あ…

静の名残惜しそうな声が



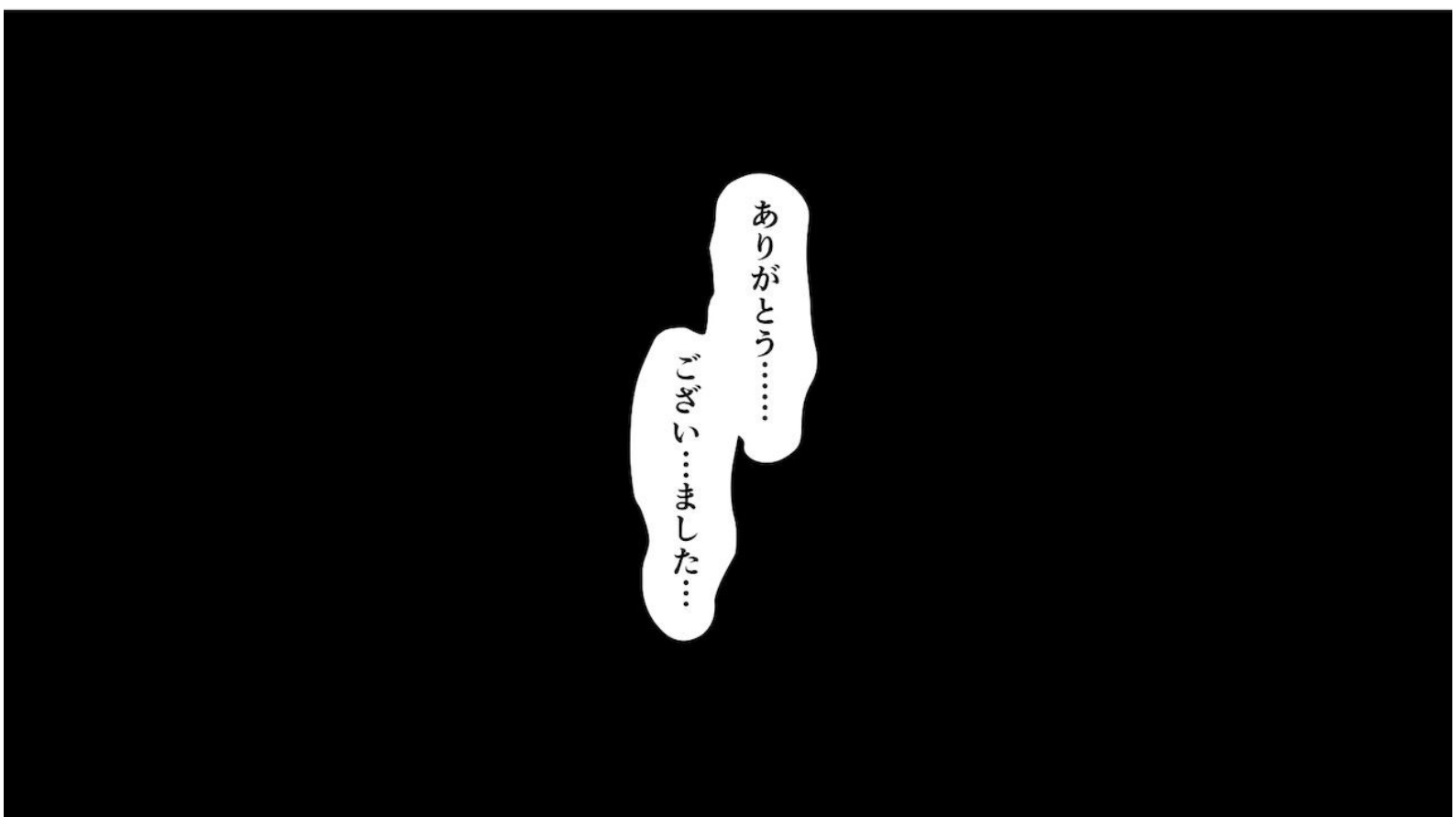
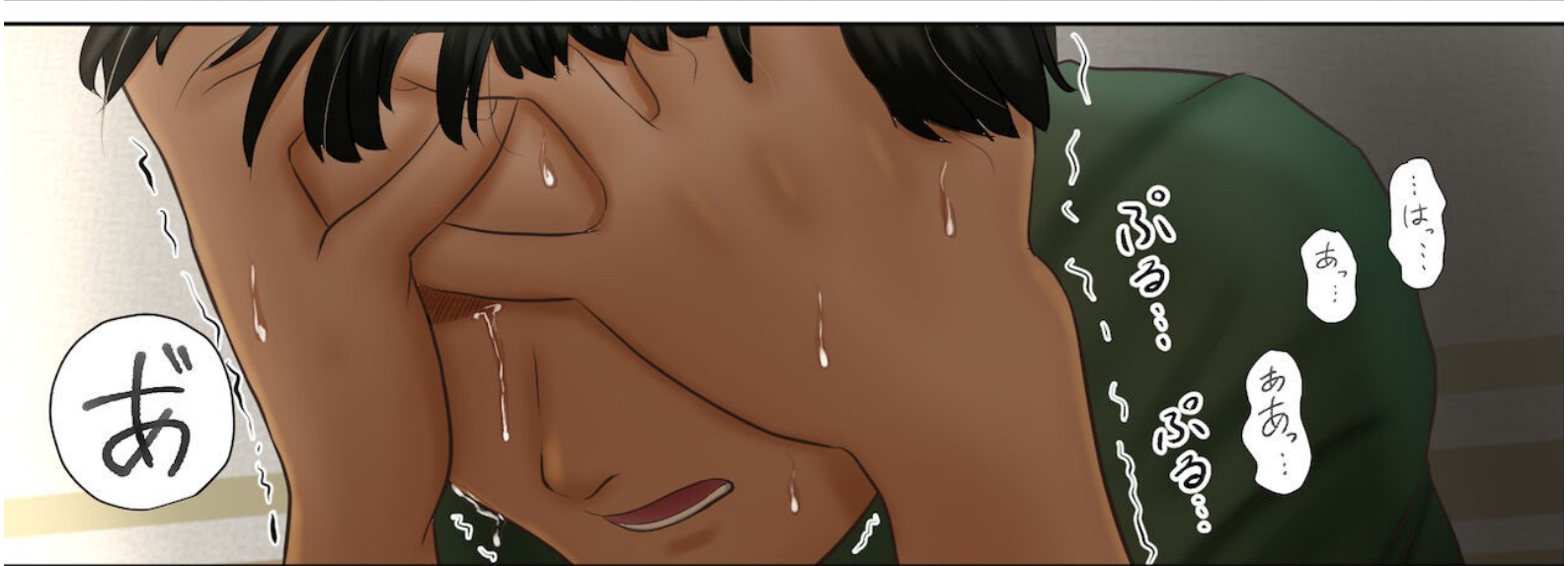
ぺたっ

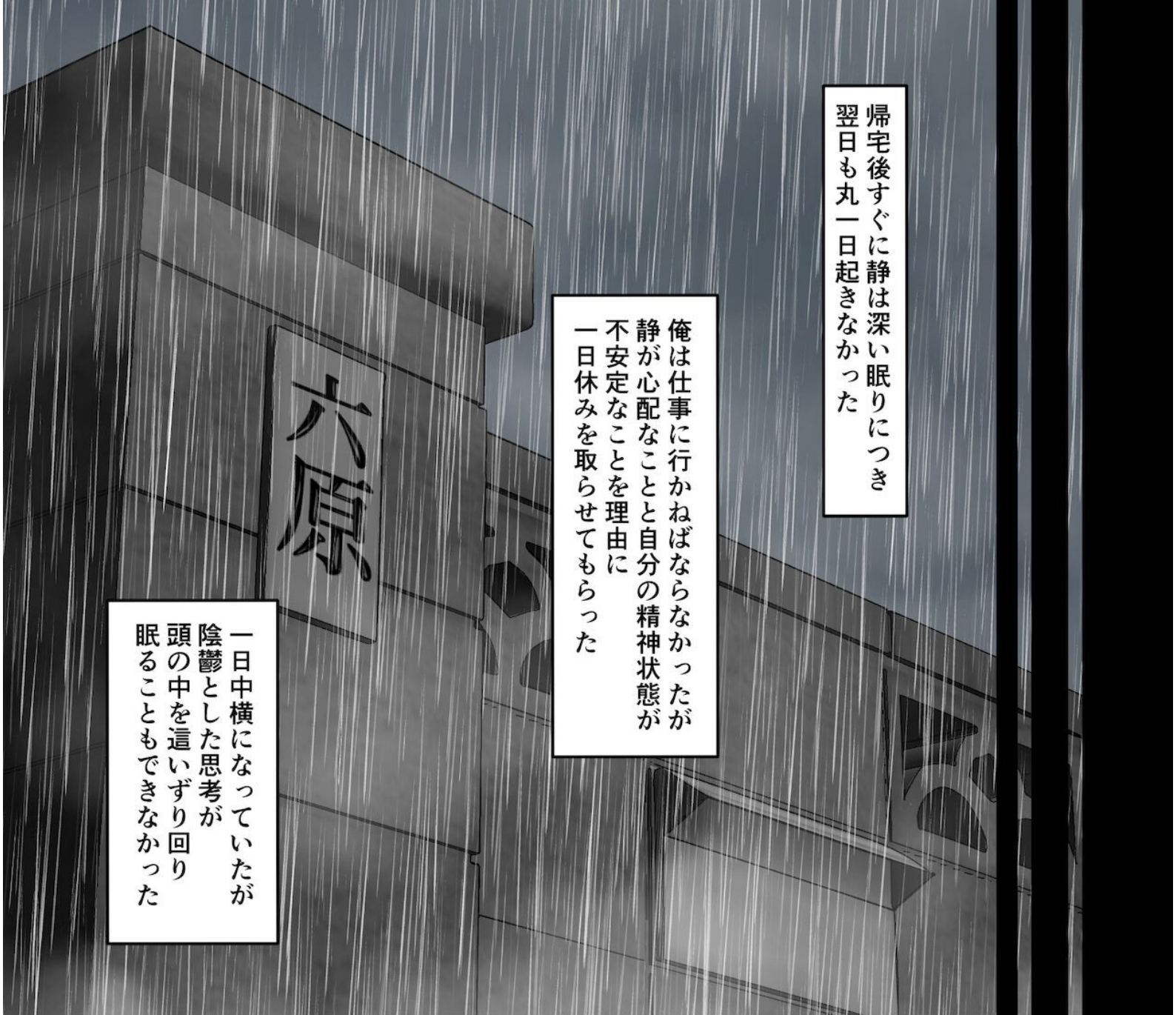
これにて儀式は
終了じゃ

子種は三日間生き続ける故
念のためそれまでは
子種がもれぬよう
封をとらぬように

ぷんっ

ぷんっ





帰宅後すぐに静は深い眠りにつき
翌日も丸一日起きなかった

俺は仕事に行かねばならなかったが
静が心配なことで自分の精神状態が
不安定なことを理由に
一日休みを取らせてもらった

一日中横になっていたが
陰鬱とした思考が
頭の中を這いずり回り
眠ることもできなかった



静は変わって
しまったのだろうか…



俺が^{みそ}見初めた
^{しと}淑やかでしおらしい静は
もういないのだろうか

少なくとも俺に対する
失望は計り知れない

身体つきはもちろんのこと
女を悦ばせる術すら全くもって
あの男にはかなわなかった

俺が決して与えることの
できないものをあの男はもっている

想えばこの半年間
本当に快樂を得ていたのは
自分だけだったのかもしれない

「感じていたフリ」をされていたのは
柵ではなく自分だったのかもしれない

女は女である前にメスなのだ

オスとしての価値がない
俺は夫失格だろう

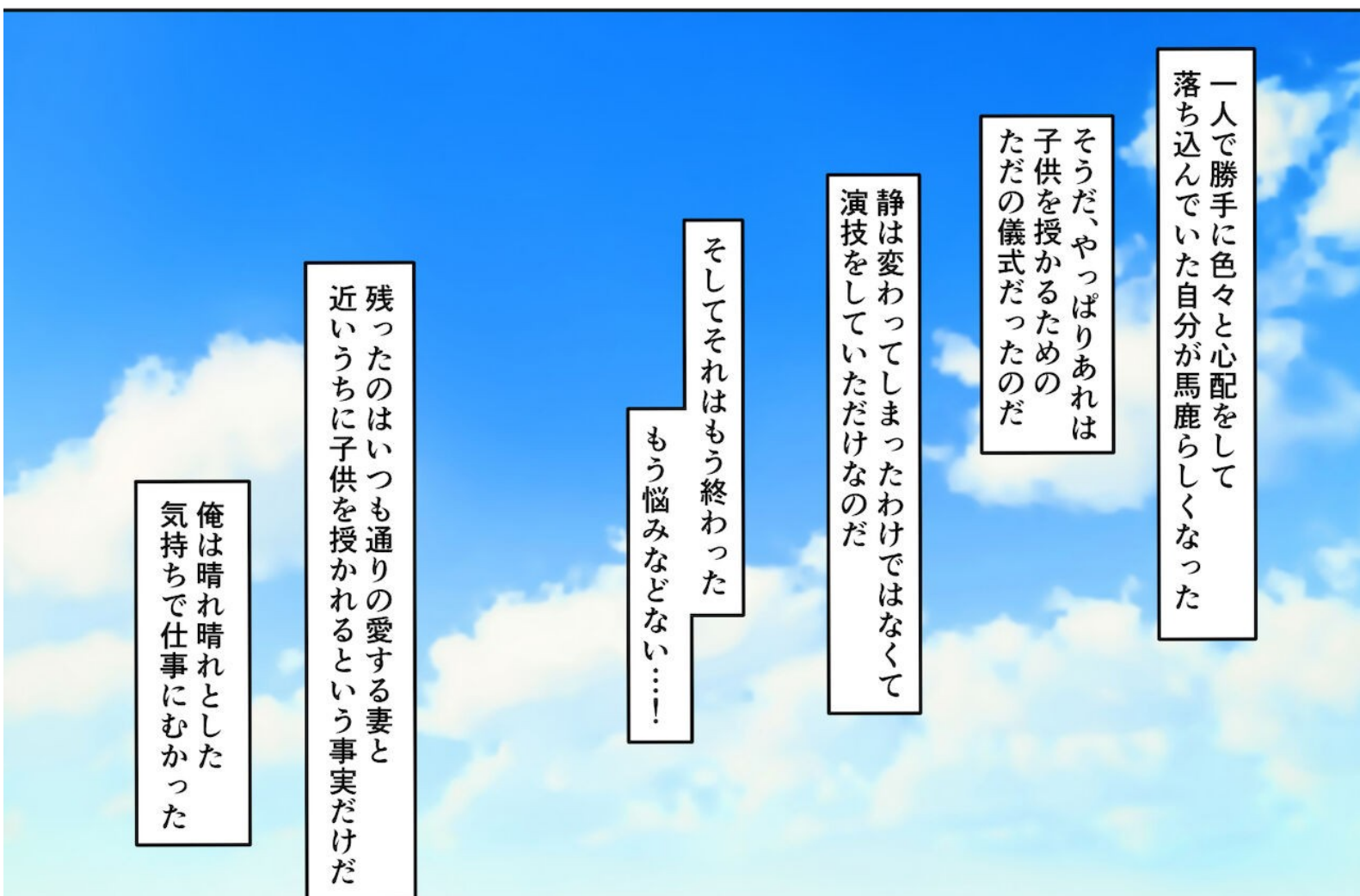
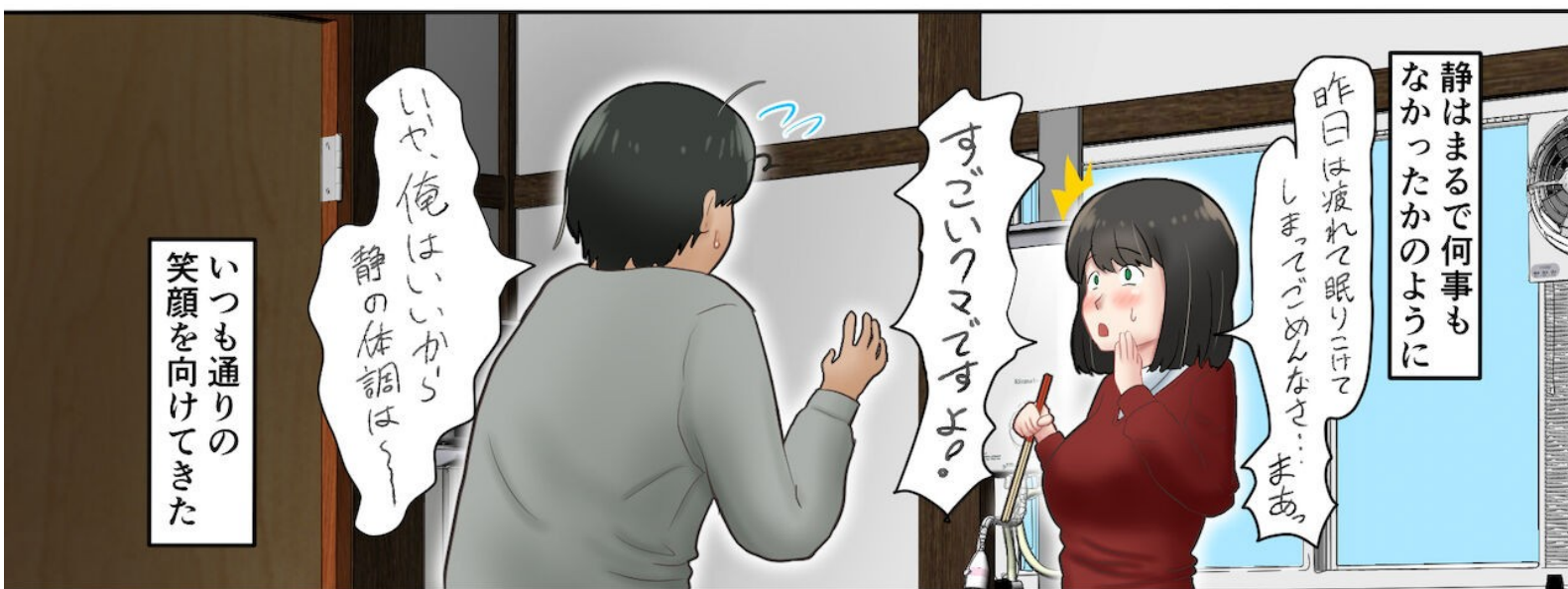
事実として途中から俺の存在など
見えてもいないようだった

静はもうきつと、俺のことなんて…

しかし翌朝…

おはようございます







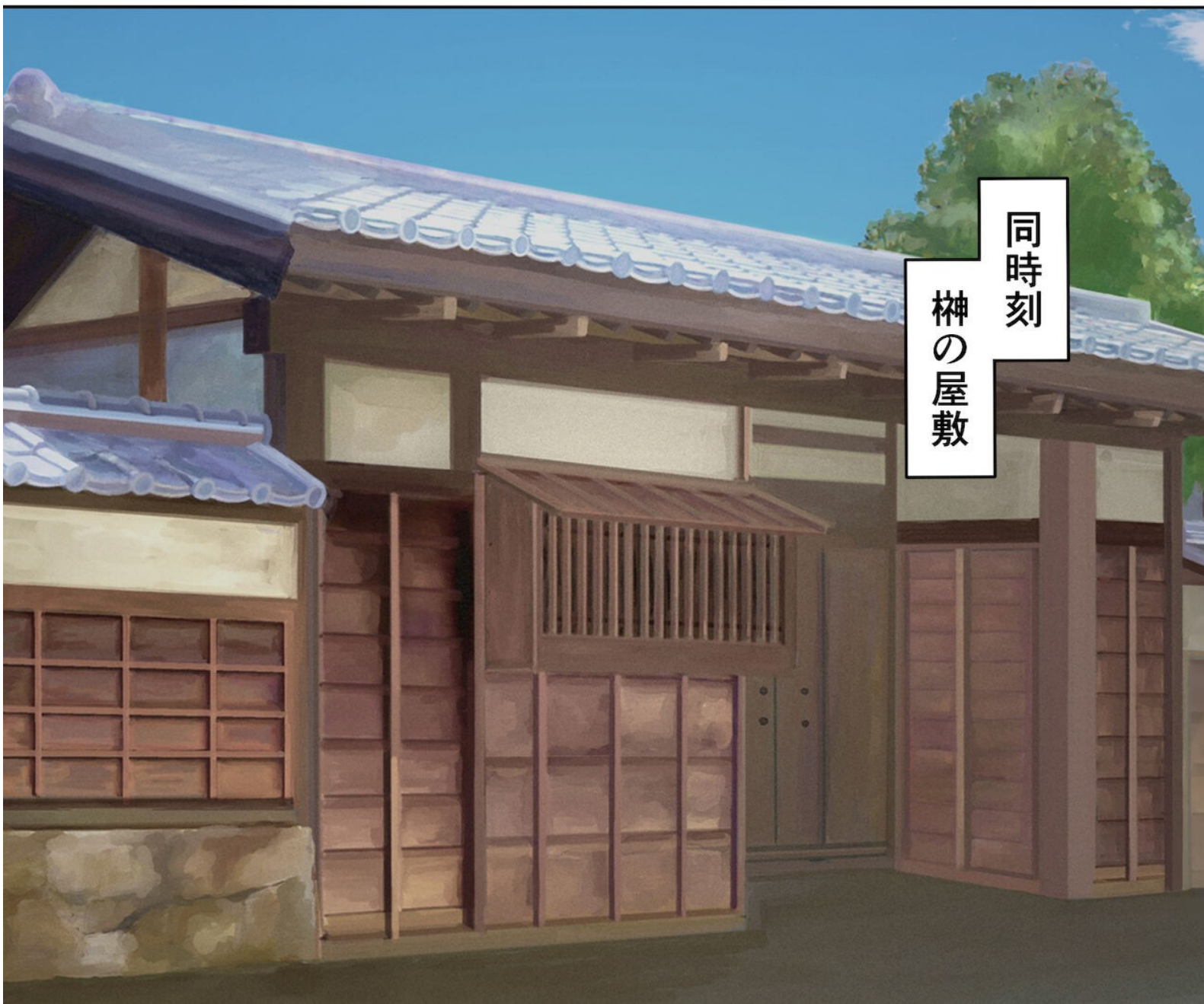
しかし肩の荷がおりて
ほうけていたせいか

仕事道具を忘れてしまい
昼休憩でとりに戻ること…

そ…

ふふ…
景気づけに静を
驚かしてやろう

え？



同時刻

榊の屋敷



そう…

娘達が真に求めている
ものは子種ではなく――

ちゅ

ん♡

三月七日

トロ…

ぬちゅ

あ♡

ブク
ブク

ん♡

ふとこの…♡
くせえ♡

ん♡
さかき…

さま…♡

ん♡…

快樂だ

ちゅ

ちゅ

たちまち落ち武者のマラの虜になった女衆はこぞって群がり
たくさんの子宝に恵まれ、村は活気を取り戻したという

村の者たちはその男に多くの食糧や献上品を収め
子作りだけに専念できるようにした

男は村の救世主として讃えられ
こう呼ばれるようになった

種付け様——と……

終
わ
り



この度はお買い上げ並びに
最後までお読みいただき
ありがとうございました。

理不尽な村の風習ってなんだか
ロマンがありますよね.....
当事者には決してなりたくないですが(笑)

なお、他作品サンプルも同梱して
いますので、ぜひご覧ください。

今後もNTRを中心として活動していきます。

以下SNSでも活動していますので、
ぜひともフォローお願いします！
(進捗報告や二次創作等っております)

ありがとうございました。

twitter: @sora_paprika
pixiv: 16885829

2021.12.26

ソーラーぱぷりか